

---

# 羽がない天使

和茶巢

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

羽がない天使

### 【Nコード】

N8868Z

### 【作者名】

和茶巢

### 【あらすじ】

あることが原因で天界から追放されてしまった天使。決して人間を愛さないと誓った。

育ての親、親友までもうわべだけ関わって深くは関わらなかった。どうせ、信用したって裏切られるから…。

しかし、高校三年の夏私は人間に恋をする事になった。

## プロローグ

私は天使だった。

人はそんな事をいつているとおかしいと思うだろ。

しかし、天使だった事は真実だ。

信じる信じないはあなたの自由だ。

少し、私の話をしよう。

わたしは、産まれた時から、皆とは違っていた…。

目の色。

髪の色。

皆は綺麗な目は水色や緑色、髪は金色だった。

しかし私は全てが黒かった…。

私は皆から天使ではなく悪魔の子と呼ばれていた。

そして、親は私を産んですぐに自殺をってしまった。

悪魔を産んだかららしい。

私は悪魔？

いや、私は皆と同じ天使…。

しかし、私は大きくなるにつれ、周りとは違う事がわかってきた。

周りも私が大きくなるにつれ、恐れた顔をするようになっていた。

しかし、私にも友達ができた。

優しい子だった…。

しかし、裏切られた…。

そう、神に通達されてしまった。  
悪魔の子がいると。

そして、ついに悪魔の子がいると神に届いてしまった。

私は、神に殺される事になった。

私は神を憎しみ、恨んだ。

私は生きてなかった。

ひっそりに抵抗をして逃げた。

私は、勝った！

私は一人でひっそり生きていた。

しかし、やはり見つかってしまった。

私はひっそりに逃げた。

しかし、ダメだった…。

私は、射たれてしまった…。

そのはずみに雲から足を踏み外してしまった……。

そして、天から落ちてしまった。

しかし、私は生きていた。

命は助かったのだ…。でも、羽は無くなっていた。

もう天界には戻れない。

あの地獄に帰らなくてすむ。

私は笑いがでた。

ここは天界とは違い天国だった。

皆が私と同じ目の色、髪の色をしていた。

私を悪魔の子と呼ぶものはいなかった。私はここで『人間』と言う

ものになる事を決心した。

私は天使を止め人間となったのだ。

そして、決して人を愛しないと誓ったのだ。

どうせ、私と関わったら皆不幸になるから……。

どうせ、裏切られるから……。

私は幸せにはならない。

そう信じていた……。

あの事がなければ……。

## 出会い（前書き）

真白 ましろ 天音 あまね

この物語の主人公  
色々あって、天使をやめた。  
身長が小さいくて。  
よく、小学生に間違われる…。

## 出会い

あれは、高校三年の夏休み。

私が図書館に行った時、私は人間に恋をしてしまった。

「んっ、んっ！」

私は身長が小さい。

この年齢で145あるかないかだ…。

そのせいで、損ばっかりする。

今も、損をしている最中だ。

なぜなら、読みたい本があるのにそれに手がとどかない…。

「もっ！」

ヒョイツ

「ふえ？」

私が読みたい本を隣の人にとられてしまった…。

（なっ！？）

それは、私が読みたい本なのに！！）

私にらんでいると隣の人が

「ん？ なににらんでんだ！？ これだろお前がとりたかったのって」

そういつて、隣の人が本を渡してきた。

「え？ ああ！ ありがとうございます！！」

「いいよｗｗｗ にしても、難しいの読んでるな」

「そうですか？ 難しいほうが楽しいじゃないですか！」

「そうかｗｗｗ 勉強熱心なんだな。 んじゃなチビっこｗｗｗｗ」

「なっ！？ チビ言わないでください！」

「はははっｗｗｗ うそうそ、バイバイ」

「はい、さようなら。 本ありがとうございます！！」

あの人は手を振りむこうに歩いていった…。  
なんか、いい人だったな……。

数日後

「陽ちゃん聞いて!」

「どっしたどっしたww」

目の前で笑っているのは私が唯一心を許している親友の陽ちゃんだ。  
今日は陽ちゃんの家で勉強会をしている。

「実はこの前…。」  
わたしは、この前あった事を陽ちゃんにはなした。

「…へえww」

「なに?」

陽ちゃんにはやけながら私をみてきた。

「いやww 天音が男の話をするなんてww」

「えっ? 初めてだっけ?」

「そうそう、あんたから男のおの字も聞いたことないからねww」

「そうか…。」

「ねえ、天音はその話してた男に会いたい？」

「会えるなら！でも、あれから図書館に行っただってあの人がいないんだ…。」

「ふ〜んww」

「なっなに？」

「いや〜、あんた多分その男に恋をしてるよww」

「恋？」

恋ってあの、人間が異性を好きになるってやつ？

「そう、恋。食べる鯉とかじゃないよww」

「わかってるよww」

「だって、あんたあれから男に会いたくて図書館に通ってたんだろ？」

「そうだけど…。」

「それが恋だよ！」

「そっそうなんだ…。」

これが恋なんだ…。  
でも、またあの人に会いたいな…。

出会い（後書き）

有気ゆうき 陽花はるか

テンションが高く天音が唯一心を許している親友。  
優しく、友達思い。

## 一学期

あれから毎日図書館に通ったが、あの人は現れなかった…。  
あの人にはもう会えないのかな…？  
そして今日、二学期が始まる。

「天音ッ!!」

「あっ陽ちゃんおはよう。」

「っで、どうなのよ現れた図書館の王子様にはww」

「会えなかったよ……。」

「……………そうか。まあ、次の恋を探そう!!」

「ありがとう。」

私は諦めた。

やっぱり、私なんか恋をしてはいけないんだ……。

「あっそうだ！新しくできたカフェに行ってみない？」

「ごめん!! 今日、委員会があつて……。」

「そうか！ 学期初めだもんね……」

「ほんとにごめんね……。」

「いいよww こればっかりはしょうがないもんww それより、早く行く？」

「うん」

キーンコーンカーンコーン

「天音！ やっと終わったねww」

「長かったねww」

「あつ、聞いた話なんだけど二年に転校生が来たんだって！」

「そうなんだ」

「なんか、そいつカッコよくて人気があるみたいなんだww」

「ふん」

「あんだ、やっぱり男に興味0だよねww」

「そっ?。」

「まあ、私は久しぶりに部活に顔だすよ」

「それじゃあ、また明日ね」

「ばいばいww」

「ばいばい!!」

私は、陽ちゃんと別れたあと私は図書委員のため図書室にむかった。

その時、先生に呼びとめられた。

「真白、ちよつといいか?」

「はい…。なんですか?」

「今日、転校生が来てな。そいつを図書委員にするから指導の方  
よろしく頼むな。」

「わかりました……。。」

「あとで、そっちに転校生連れて行くから。」

「はい。」

転校生ってあのカッコいいとか言われてた奴だよね……？  
それって最悪………。

「はあく絶対無理!!」

「おい、真白転校生連れて来たぞ!!」

げっ!

来やがった!!!!

「ほら、転校生早く入れ!」

「はっい」

ん?

この声なんか聞いた事があるぞ?

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8868z/>

---

羽がない天使

2012年1月6日23時51分発行